

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
経営学Ⅱ Business Administration Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(上級ビジネス実務士必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
経営学Ⅰ、ビジネス実務総論Ⅰ・経営組織論、技術戦略経営、知的戦略マネジメント論、マーケティングⅠ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ビジネス実務総論Ⅱ、マーケティングⅡ、技術戦略経営				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
國分三郎	本館 2F	木曜日 12:10~13:00		授業中に指示します
授業の概要				
経営学Ⅰで学んだ人を対象に現代経営学の基礎概念や基礎理論を学ぶ。まず、企業の利潤獲得を概観して企業の有るべき姿を考えた後、経営資源の問題を取りあげて経営資源の有効な利活用について考える。次いで、現代企業を組織的観点からとらえ効率的な経営管理は如何にあるべきかを考える。受講者は現代社会と企業が当面する問題を認識し、将来の自分のキャリアについて考える。				
授業の目標				
①企業の経営理念と行動原理を理解した上で、自己のキャリア形成を考える知識を習得できるようにする。 ②現代企業の利益獲得行動を考究し企業のあるべき姿に関する知識を習得できるようにする。 ③現代企業の組織的形態とマネジメントに関する知識を習得できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義方式であるが出来るだけダイアログ方式を取り入れる。また、ミニッツペーパー、ケースメソッドを取り入れて、受講者の理解を深めたい。さらに、DVDなどの映像を視聴した後、グループ別ディスカッションを行いたい。				
学習の成果(学習成果)				
現代企業における経営理念と経営資源の重要性、企業の利潤獲得行動の正当性、経営組織の編成原理に関する専門的知識を修得したうえで、その知識を自己のキャリア形成を考える上で活用できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)			
第2回目	経営目標としての利潤性の追求(利潤にまつわる悪いイメージ、新しい利潤概念の出現)			
第3回目	企業目標としての社会性の追求(新しい企業観出現の背景、新しい企業観と経営者)			
第4回目	企業目標としての利潤性と社会性の関係			
第5回目	経営理念と経営戦略			
第6回目	日本的企業の経営理念-長寿企業をモデルとして			

第7回目	企業の利用する経営資源(経営資源とは、ヒト、モノ、カネ)
第8回目	新たな経営資源の登場(情報、企業文化、時間、技術) 小テスト
第9回目	経営資源の問題領域と特徴(経営資源の獲得と分配、時代の変遷と経営資源の変化)
第10回目	経営資源の獲得・利用・蓄積・分配
第11回目	企業の管理①(企業の管理、経営機能の分化,)
第12回目	企業の管理②(マネージメントの過程)
第13回目	企業における組織づくり①(企業における作業の分化、経営機能の分化、組織の原則)
第14回目	企業における組織づくり②(企業における組織の基本的形態)
第15回目	大企業における新しい組織形態

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、総ての授業に出席し配布物資料以外の重要な事項についても調べ、ディスカッションでは積極的に発言する。また、授業内容での疑問点に関して積極的に質問をする。
レポート	5%	最高水準(S)としては、企業経営に関するDVDを鑑賞した後、その内容をテーマに添って一貫性を以て記述すること。
調査報告書		
小テスト	5%	小テストの最高水準(S)としては、出題された5つの基本的な専門用語を、1問300字以内にその要点を纏めて記述すること。
試験	60%	期末試験の最高水準(S)としては、設問の主旨を理解した上で、設問で求められている内容を必要な専門用語を使いながら一貫性を以て論述すること。
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

教科書 経営学 I で使用したものを引き続き使用する。片岡信之編『はじめて学ぶ人のための経営学 ver.2』文真堂

履修上の留意点・ルール

基本的に欠席・遅刻・早退は認めないが、止むを得ない時には申し出ること。出席状況を重視する。